

平成29年度 第1回 一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録（要旨）

日 時：平成29年7月10日（月） 午後2時～3時50分

会 場：一宮市役所 本庁舎14階 大会議室

出席者：委員18人（うち代理2人）、事務局7人 ※欠席委員2人

傍聴者：0人

1. 開会

委員交代の報告、部長あいさつ、事務局自己紹介

2. 資料の確認

「一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、資料1「一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議委員名簿」、資料2「まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む事業の進捗状況について」、資料3「国の交付金等を活用した事業について」

3. 定足数の確認と傍聴者の報告

- ・一宮公共職業安定所長の代理で次長・日比野氏出席
- ・いちい信用金庫常務理事の代理で地域活性化推進部顧問・脇田氏出席
- ・傍聴者0人

4. 議事

（1）まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む事業の進捗状況について【資料2】

▽事務局から概要説明

- ・資料について、過去のデータの追加、数値のグラフ化、達成率の記載の3点の変更を説明。
- ・進捗状況について説明し、数値目標指標についても、概ね順調に推移していることを報告。

▽委員の意見等

- ・p12「にぎわいを創出する中心市街地の活性化」では、具体的な事業が土地の高度利用のみ。目標値もあるが、大きな土地があればいいが、多くは見込めない。もっと市民が中心市街地でいろいろなことができるようにしてはどうか。ハコモノを作っただけでは活性化できないので、例えば、市民が素晴らしい事業をやりたいというときに、道路使用許可など後押しとなる施策などを考えていただきたい。規制緩和による実績件数を指標としているが、それだけで中心市街地の活性化を測れるものでもないと思う。中心市街地の活性化について、指標の追加を検討していただきたい。

事務局：規制緩和を実施したばかりなので、今後状況を見守っていただきたい。また総合戦略が動き出して間もなく、KPIをこの段階で見直す予定はなく、今後推移を見ていただきたい。目標達成が困難となりそうでも、下方修正は考えていない。

- ・p3「小規模保育事業所数」とp4「保育所待機児童数」について、保育施設を設けるほど待機児童は増えていくという現状がある。待機児童0人という目標に向けて進めていくということが良いか。

事務局：保育の多様なニーズに合わせて保育施設を充実させながら、原課では、待機児童0人という目標を目指して取り組んでいる。

- ・p9「市内への定住・移住の促進」で、空き家の利活用については特に若い世代への供給も必要と思うが、具体的に考えているか。

事務局：昨年度、空き家に関する計画を策定し、今年4月から専門部署ができた。どう活用するかは検討中である。連携協定を締結した金融機関からは、空き家バンクがあれば金利優遇も可という話もいただいている。

- ・小規模保育事業所や放課後児童クラブを造って目標を達成しているといっても、市民の声を知らないといけない。

事務局：原課に利用者のご意見も確認してほしい旨を伝える。

- ・p5「経済的支援による子育て世代の負担軽減」で、市の財政は大丈夫か。

事務局：財政面については、市を信頼していただければと思う。

- ・達成率がマイナスのものがある。目標に対して現時点で25%達成していれば順調と判断するのは危険ではないか。

事務局：毎年均等に進んでいくものばかりではないが、昨年の会議にて基準を示してほしいとの要望があり、見方として表記している。標準的な進捗状況として達成率25%と示したが、一つの目安として考えてほしい。

- ・中断や中止した事業、計画の変更が予想されるものがあれば教えてほしい。

事務局：中断した事業については、p16「位置情報システムを利用した観光ツールの導入」で「Ingress」を検討していたが「ながらスマホ」の危険性から中断した。

- ・以下のような自論を述べ、回答は求めないとの発言

事務局は担当に伝えると答えているが、委員の意見を直に聞いて検討してもらいたいので、是非とも担当者にも来てほしい。指標が一人歩きしていると思う。例えば犯罪認知件数が減っているが、状況が変化しているのに数値だけ見て満足して良いか。KPIは指標でしかなく、状況が変わっていけば、見直しも必要。今後、事業も中身を見て、見直しが必要になってくる。規制緩和によってマンションができれば、あるいは商店街の中に月極駐車場ができた状況の中で、それがまちの活性化につながるのか。目標を見直しながらやっていくのなら良い。市民・企業・行政・団体の協働していく仕組みがないといけない。

- ・地方創生や総合計画は具体的でないから意見・質問が出しづらい。何をやっていくのかが大事。中心市街地活性化は何十年も前からやっている。何が問題なのかを掘り下げる形にしたら良い。地方創生というのは、例えば、稲沢と比較して勝つこと、自治体間の競争ではないか。近隣との比較をきちっとして、政策的なことを書くべき。
- ・p9「社会増」で、これはフローか、ストックか。転入・転出の内訳はどうなのか、掘り下げない

といけないと思う。

事務局：ここで記載しているのは、転入者から転出者を引いたものである。

- ・p1「恋づくり出会い支援事業」でのカップル成立は結婚ということか。女性の方は一宮だが、男性が沖縄出身で結婚して出て行ったという事例もある。それでは、各地方から来た男性に持っていかれてしまう。

事務局：カップル成立はイベント時であり、結婚ではない。このイベントに参加できるのは、市内在住・在勤の方、市内に居住希望の男性となっており、仕組み上は市内での定住が進む形となっている。

- ・p11「世界的スポーツイベントに関連する事業の誘致」でラグビーワールドカップについては情報の収集としか記載がなく、結果はどうだったのか。

事務局：ワールドカップは組織委員会の決定待ち。今後、候補地の決定、公認チームキャンプ地の決定が予定されている。

- ・p15 フィルムコミッション10作品とは、他にいろいろあった中で10作品を受け入れたのか、全て受け入れて10作品なのか。

事務局：フィルムコミッションの支援作品は、打診された中で制作側の希望や撮影条件等も合致して撮影したのが10作品。支援作品は、浅野公園の池の水抜きなどがあり、いずれも放送されている。

- ・p1「合計特殊出生率」で、若い世代の出産を増やさない、と思うので、できれば5歳刻みの出生率を出してほしい。

事務局：可能であれば考えたい。

- ・待機児童の話で、土日仕事の人が多いというニーズもあるので掘り下げてほしい。
- ・放課後児童クラブと放課後子ども教室は何が違うのか。相互補完と書いてあっても、利用する側は片方しか利用できないのに、何をしていくのか分からない。

事務局：放課後児童クラブと放課後子ども教室と異なる元は根拠法令等に基づく縦割りが原因だが、分かりやすい資料にしたい。

- ・p5「経済的支援による子育て世代の負担軽減」での「小中学生の通院医療費を全額助成」という事業は、後戻りはないと思うので、済んだ事業として、適度に修正していくのも必要ではないか。

事務局：達成した事業についての見直しは、進捗管理の上で、全体の達成度が分かりにくくなるので考えていない。今後、こういった終了事業が増えていくなどの状況の変化があれば、改めて考えていきたい。

- ・p2「特定不妊治療費補助件数」で達成率が「-29%」というのはどうか。

事務局：マイナスの表記は良くなかったので、達成できていないということで「0%」と読み替えてほしい。

- ・特定不妊治療費補助件数の達成率「0%」は、どう評価するか。

事務局：総合戦略の全体評価をする場合、5つの基本目標に各々設定されている数値目標指標がキーとなるポイント。それをもって評価していただき、このKPIに限って言えば、その年の利用者

の状況によって変わってしまう。あくまで事業の活動量を測る指標として確認していきたい。

- ・数値目標指標の達成率だけで、KPIの達成率はいくらでもいいのか。

事務局：最重視するのが数値目標。どう評価するかは委員の皆さんでご協議いただきたい。

- ・総合戦略の「アンケート調査結果」で、「将来は一宮市に住みたい」との回答より「住みたくない」が2倍以上。通勤・通学に不便や就職先がないからという理由で、若者が一宮市を離れてしまったら、『若い世代の希望をかなえ、充実した子育て環境と子どもが健やかに学べるまち』をつくる」という目標が達せられない。

事務局：最近行ったもう少し規模の大きいアンケートでは、7割の方が一宮市に住み続けたいと回答している。

- ・総合戦略の「県内の人口同規模市との比較」で企業数が最も多いのに、若者が興味を持っていないということは、魅力があることを知らないのではないのか。合同企業説明会など、アピールのために市として活動をしているか。

事務局：合同企業説明会は毎年iービルで経済振興課が開催している。

- ・p15「フィルムコミッション活動による知名度アップ」について、浅野公園の番組後、実際に公園の様子も見た。水抜きは3分の1で、きれいになった池に亀が悠々としていた。一部だけがきれいになって、他は変わっていない。この状況では、知名度アップになったと思わないし、これを誇りに思うのだろうか。残り3分の2をどうにかできなかったのか。中途半端に終わっているという感想である。

(2) 国の交付金等を活用した事業について【資料3】

▽事務局説明

- ・総合戦略に掲げる「尾州テキスタイルのブランド化」において、交付金の活用を説明。
- ・事務局としては、いずれの交付金事業についても「地方創生に効果があった」と考えており、委員の判断を仰ぎたい。

▽委員からの質問等

- ・尾州テキスタイル産業の数々の事業を行っていることが、市民の方に伝わっていない。FDCを中心として活発に活動し、東京へのPRもしている。市内企業の契約件数はどういう意味か。

事務局：契約件数は、展示会等で契約に至った、新規の単年度の件数を記載している。なお年度末の時点で計上した数値であり、その後に契約される場合もある。

- ・すでにあるブランドにはプロモーションされているし、売っていてもいるはず。新興ブランドが対象となると思うが、目標として挙げている件数を達成できるほど、今後も出てくるのか。
- ・消費側から見ると、この4～5年の間に婦人服の会社が少なくなっている。そんな中で、6件は高い目標では。

事務局：成約件数については、同じ会社であっても件数に数えるので、全て新規のブランドというわけではない。

- ・契約件数としてカウントするのは、展示会全てか、ヤーンフェアなど大きなものだけか。

事務局：全てを含めている。

- ・交付金の中間目標を設定しているか。要綱には中間評価を行わなければならないと書いてある。我々が今回、中間評価を行うのか。

事務局：中間評価について、この会議でご確認いただきたい。

- ・資料2と同様、目標値に対して25%に到達していない事業の効果は評価できない。

事務局：確かに、28年度の実績が1件で、25%に届いていない。

- ・もっと効果が分かるKPIを追加しては。

事務局：この指標をもって交付金の申請をしているので、この指標でお願いしたい。

- ・例えば、ヤーンフェアの参加者で見れば増加しており、市の活動としては効果が出ている。目標に対して、進行中の事業と考えれば、努力が見られる。
- ・まとめとして、成果が見られることを踏まえ、特に異議がないので「地方創生に効果があった」ということを結論にしたい。

5. 閉会（部長）

- ・総合戦略を策定して初めての実績報告であり、いろいろとご意見をいただいた。会議に全部の部局が出席するのは難しいが、検討したい。総合戦略は5年間の計画であり、スピード感を持って進めていきたい。